

第一節 松江の文化を支えた多様な地形

古代より連綿と受け継がれてきた松江の文化と歴史は、この地方の変化に富む地形とそれらが作る多様な環境に支えられてきた。

島根半島の山並みを挟んで北側には大陸文化との交流の場となった日本海、海原が広がり、南側には宍道湖から中海に延びる低地が開け、古代文化の拠点から近世以降の松江へとつながる歴史の舞台となった。さらにこの低地帯の南にはかつてわが国の製鉄産業を支えた奥出雲へと続く中国山地の山並みが幾重にも連なり、その間を縫う川に沿って続く古くからの街道が、瀬戸内や大阪方面との物流に重要な役割を果たしてきた。

ここではまず、松江の文化と歴史を支えた地形的な特徴から見ていくことにしよう。

一 松江の地形の概要

島根半島の山と海 松江市域を含む出雲地方の地形は日本海側から、島根半島、中海・宍道湖低地帯、中国山地に大きく三区分できる（図1-1）。

島根半島の山並みは日御碕から出雲平野北縁に連なる鼻高山（五三六・三メートル）や弥山（四九五・八メートル）を含む出雲北山の山塊、^{うつぶるい}十六島東方の摺木山（四一五・二メートル）から本宮山（二七九・四メートル）を経て朝日山（三四三・〇メートル）に連なる宍道湖北岸の山塊、^{みさかやま}三坂山（五三五・七メートル）を中心とする松江北山から高尾山（三二八・四メートル）、美保

第一節 松江の文化を支えた多様な地形

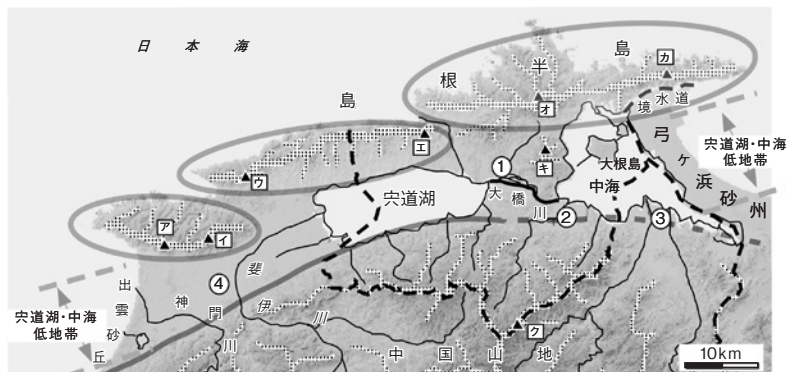


図1-1 地形の概観

① 松江平野、② 意宇平野、③ 安来平野、④ 出雲（斐川）平野

ア. 弥山 (495.8m)、イ. 鼻高山 (536.3m)、ウ. 摺木山 (415.2m)、エ. 朝日山 (343.0m)
オ. 三坂山 (535.7m)、カ. 高尾山 (328.4m)、キ. 嵩山 (331.0m)、ク. 天狗山 (610.4m)

関へ中海北岸に連なる山塊の三つの山塊からなり、それらが雁
こうじよう
行状に配列している。よく知られているように、これらの山塊
が集合する様は『出雲国風土記』の世界では八束水臣津野命に
よる「国引き」の神話として語られている。

島根半島の北岸は日本海の荒波を受け、断崖や海食洞、海
食台が随所に形成され、大山隠岐国立公園の一部をなす景勝地
になっている。また入り組んだリアス式の海岸は、古くから漁
業の基地や漁船の避難場所として利用されてきた。

中海・宍道湖低 地帯と中国山地

半島の南岸には中海・宍道湖低地帯が東西
に延び、斐伊川水系の下流域を構成してい
る。斐伊川は中国山地の船通山を源とし、総延長一五三キロ、流
域面積二五四〇平方キロに及ぶ出雲地方最大の河川であり、松江
市域では大橋川となり宍道湖と中海の二つの汽水湖をつないで
いる。宍道湖と中海の面積はそれぞれ七九・一平方キロと八六・
二平方キロ、周囲はそれぞれ四七キロと一〇五キロであり、日本の湖
沼ではそれぞれ七位と五位の広さであるが、大橋川によって一
連の水域を構成しているため、わが国最大の汽水域とされてい